

オンラインワークショップ
親子で外来生物を知ろう

外来ほ乳類

議 事 録

日時 2021年8月11日(水) 午後14時 開会
場所 オンライン(Zoom)開催

(進行 近藤) みなさん、本日は「オンラインワークショップ親子で外来生物を知ろう さっぽろの外来生物ってなんだろう？」にご参加いただき、ありがとうございます。私、本日、進行を務めさせていただきます、近藤と申します。どうぞ、よろしく申し上げます。私の声、聞こえていますかね。大丈夫そうですね。では、大丈夫そうなので進めていきます。

今、画面に本日の進行内容が映し出されました。ワークショップの最後にアンケートのご協力をお願いいたします。後ほど、またご案内いたしますので忘れずに答えてください。

それでは、本日、本題に入る前に、いくつか約束があります。いいかな。オンラインワークショップは、このあとY o u T u b eでも閲覧できるようになります。先生方も、みなさんのお顔を見てお話ししたいので、カメラはできるだけオンにして参加してください。なお、あらかじめ、カメラオフで参加しますと連絡いただいていた方に関してはカメラオフのまま大丈夫です。みなさんの音声が入ってしまうと、先生のお話が中断されてしまうかもしれないので、マイクは質問のとき以外はオフにしてください。はい、大丈夫そうですね。

はい、それでは、本日お話ししていただく先生は、E n V i s i o n環境保全事務所、吉田先生、工藤先生、円山動物園の大久保先生です。大久保先生、まず、よろしく願いいたします。

(大久保梨奈) はい、お願いします。では、始めさせていただきます。では、みなさん、アライグマはどれかわかりますか。もしわかったらチャットでA、B、C、Dのどれか打ってみてください。わかるかな。

(工藤 知美) みなさん、アライグマはどれでしょう。Aか、Bか、Cか、D。これかなと思うものをチャットというところに打ってもらってもいいですか。

(大久保梨奈) では、答え合わせです。はい、答えはBです。Bのアライグマ。こちらアライグマはBでしたね。はい。

(工藤 知美) 正解だった人。

(大久保梨奈) おっ。

(工藤 知美) 何かいそう。

(大久保梨奈) いますねえ。

(工藤 知美) 手をあげてくれてありがとう。

(大久保梨奈) すばらしいです。こちら一番左、Aのアカハナグマというのは、鼻が長くて右の3つと区別がつきやすいですね。そしてCのレッサーパンダはなんとなくアライグマより毛色が明るくて、明るい茶色でわかりやすい気がします。一番右のD、タヌキは、かなりアライグマと似ていると思うので、間違えた人いるかな。いるかもしれないのですけれど、そうですね、タヌ

キはアライグマと比べてみて、目と目の間の黒い線がなくて、あと耳のふちが黒いと思います。アライグマは、目と目の間に黒い線があって耳のふちが白いのがわかりますね。

(工藤 知美) アライグマは、何で目が黒いのですか。

(吉田 剛司) 目の周りが黒いということは、みなさん、なぜかな、と思うと思うのですけれど、わからないのですよ。たぶん、夜行性だから暗いほうが、黒いほうが、よく見えるという人もいるし、人によっては、学者さんによっては、この黒い場所の大きさで、それぞれが顔を認識しているという人もいます。

(工藤 知美) どれでしょう。アライグマに一番近い動物のなかに1種類だけいます。アカハナグマ、レッサーパンダ、エゾタヌキ、どれだと思いますか。

(大久保梨奈) アライグマとアカハナグマが同じグループに入ります。動物はネズミの仲間、ウマの仲間など、似ている特徴を持つ動物同士でグループに分けられています。私たち人間でいうと、サル目という大きなグループのなかの、より近い特徴を持つ動物がヒト科という小さなグループに入ります。アライグマはですね、ネコ目という大きなグループのなかのアライグマ科という小さなグループに入ります。こちらにアライグマとアカハナグマが入るのですね。

では、次にアライグマがどのような動物か知っていますか。アライグマの特徴について勉強していきます。

では一つ目、後肢で立てる。これは後ろ足、後肢とは、後ろ足という意味です。

はい、見えるかな。アライグマ、こちら後ろ足だけで2本で立つことができます。アライグマやレッサーパンダは踵を地面につけて歩く動物なのでこのように安定して後ろ足だけで立つことができます。

(大久保梨奈) こちらはエゾタヌキです。タヌキは、つま先だけ地面につけて歩く動物です。このように、人に前足をかけていないと、寄りかからないと後ろ足だけで立てません。

(工藤 知美) 見えましたか。アライグマは前足を完全に飼育員さんから離して立っていたのですけれど、タヌキは飼育員さんに寄りかかるかたちでしか立つことができないのです。こういう特徴があります。アライグマとエゾタヌキはすごく似ていますが、こういうところを見てみるとちょっとずつ違うところがあります。吉田先生、これは、アライグマとエゾタヌキが、仲間が違うというところから、こういう特徴が出てきているのですかね。

(吉田 剛司) アライグマは、さっき大久保さんが言ったとおり、アライグマ科というぜんぜん違う仲間で、タヌキはイヌの仲間なので、手足が器用なところな

どタヌキにはできないことが、アライグマではたくさんできるんですよ。

(大久保梨奈) はい、ありがとうございます。では、二つ目の特徴です。木登りが得意という特徴ですが、では、ここで動物園からライブ映像を流したいと思います。

(工藤 知美) はい、今現在のこれはエゾタヌキの様子です。

(大久保梨奈) タヌキはああいう感じで、木になかなか登れないですね。はい、では、次。では、このタヌキを見ていただいたあとに、アライグマ、見てみましょう。今のタヌキの登れない感じ、ちょっと覚えていてね。はい、次、アライグマのお部屋に入りました。今、飼育員さんがエサを高い所に置きました。探していますね。上にあった、見えませんでしたでしょうか。はい、今、柵に手をかけて登っています。はい、ありがとうございます。

(工藤 知美) すごい、木登りはアライグマのほうがたしかに上手ですね。アライグマのほうが登るのが得意なことがわかった人、手をあげてみてください。ありがとうございます。はい、では、そうしたらお話、続き聞きましょう。

(大久保梨奈) では、三つ目の特徴です。今までの2つは、タヌキとアライグマの違いでしたが、この、次の、手先が器用という動画、見てください。

こちらはフィーダーといって、こういう穴のあいた箱にエサを入れているのですが、はい、手を突っ込んでエサをとって食べていますね。見えるかな。はい、またこちらの違うフィーダー。これは溝みたいな所に、これもまたエサを入れているのですが、はい、手を突っ込んで食べています。アライグマは手のひらの触覚もすごく鋭いのでエサを手で探して食べることが、探すことができます。はい、この動画、ちょっと早送りしますね。はい、見えますでしょうか。

今、吊り下げられていた竹筒を、こう上から引っ張って持ってきて、穴に手を突っ込んでエサを食べています。このように手先が器用なのはレッサーパンダとの違いといえますね。タヌキとレッサーパンダの違いは、わかったでしょうか。わかった人、手をあげてください。はい、ありがとう。そしてアカハナグマ、さっき言った、同じアライグマ科という、アカハナグマは、今のアライグマと同じような特徴を持ちます。だから、同じアライグマ科なのですね。

はい、今、出てきたタヌキ、アライグマ、レッサーパンダ、アカハナグマはこのマップで、マップが見えると思うのですが、円山動物園で見ることができます。

はい、では、次に、アライグマは手先が器用で上手にエサを食べることができますが、こういったものを食べているのでしょうか。

はい。動物園ではこんなエサを与えています。ドッグフード、リンゴ、

ブドウなどの果物、サツマイモ、ニンジンなどの野菜、あとヒヨコ、ニボシなども与えています。いろいろな種類のエサを食べるのですね。

(工藤 知美) すみません。アライグマは、洗う、と、クマ、というのが名前に付いているのですけれど、エサを洗って食べるのですか。

(大久保梨奈) 実はアライグマが洗って食べているというのは誤解で、川などのカニやエビなどをとって食べているところが洗っているように見えて、アライグマと名づけられたといわれています。

(工藤 知美) ありがとうございます。

あと、アライグマが、スイカとか食べるというふう聞いたことあるのですけれども、それは吉田先生どうなのですか。

(吉田 剛司) アライグマはものすごく手が器用です。カニを食べているから洗っているように見えたという話が、さっき、ちょっと出ました。

アライグマは、実は、もう一種類世界にいて、それはカニクイアライグマです。

南米でカニばかり食べているようなアライグマなののですけれど、カニばかり食べているわけではないのだけれど、すごく器用に石とかをよけて、カニを食べたりするのです。そういう仲間がアライグマなので、当然ながら器用にいろいろなものを食べることができます。

例えば、最近の札幌では、よくトウモロコシを手で持ってかじって食べています。しかも美味しいところだけ。

(大久保梨奈) そうやって手先が器用で、いろいろな食べ物を食べるということは、被害が見られると思います。あとは、どのような被害がありますかね。

(吉田 剛司) あとは、そうですね。

生態系の被害と書いているのは、アライグマというのは当然ですけれど、いろいろな食べ物を食べられます。さっき飼育員さんから見せてもらったように魚だったり鳥だったりを食べるわけです。

木に登れるということは、例えば北海道で木の上で巣をつくっている鳥が食べられてしまう。実はタヌキではできないから北海道の生態系にとっては非常に危険だということになるね。

あと、水の近くが好きということは、例えばタンチョウのヒナなんていうのは最も狙われやすいですね。

それから、人の生活の被害というのはあまり北海道ではないですけれど、京都とかに行くと古いお寺の屋根の上におしっこかうんちいっぱいしてしまっ、て、すごくにおうという問題まで出てきています。

(工藤 知美) アライグマが結構、人の生活の近くにいるということですね。

(大久保梨奈) はい、先ほど、吉田先生から、タンチョウなどを狙うというお話があり

ましたけれど、この画像、見えるかな。

これは右側に鳥の巣がありまして、それを狙っているアライグマの画像、監視カメラの画像ですね。

こんなに3頭も集まってきています。

(工藤 知美) 右側というのは画面の右側のもしやもしやした所ですかね。

(大久保梨奈) そうですね。

(吉田 剛司) これは、どこの監視カメラですか。

(大久保梨奈) こちらは動物園のものです。

(吉田 剛司) 動物園の近くにも、もうアライグマが来ているんだね。

(大久保梨奈) そうなのですよ。

あと、こちらですね。これは、もう鳥の巣のなかのカメラなのですけれども、アライグマが入ってしまっている画像ですね。びっくりです。

(工藤 知美) もう入り込んでしまっているということですか。

(大久保梨奈) はい。もうくつろいでしまっていますね。

(工藤 知美) アライグマは、今ここで鳥の巣の卵を狙っているということですか。

(大久保梨奈) そうですね。卵だったりヒナだったりを狙ってきているのだと思います。

(吉田 剛司) 怖いね。

(工藤 知美) 今回のワークショップは外来種というのがテーマになっているので、アライグマがもともと日本とか札幌にいなかったというのは、みなさんもう知っていると思うのですが、どのような経緯で、経路で来たのかというのを知りたいという質問が事前がありました。どこの国から来たのですか。

(大久保梨奈) はい、ではアライグマどこから来たのでしょうか。

こちら見えますかね。はい、アライグマは、こちら赤い丸で囲ってある北アメリカから中南米の所が、もともと生活している場所です。外国なのですね。日本ではないのですよ。

では、どうして今、日本やら、ほかの国で増えているのでしょうか。

吉田先生、何ですか。

(吉田 剛司) みなさん、「あらいぐまラスカル」知っていますか。知っている人、丸してみてください。体で、丸ってやってみて。

(工藤 知美) お母さんとかのが。

(吉田 剛司) あまり知らないかな。お母さんは、よく知っているよね。では、ラスカルをせっかくなので見られますかね。

(工藤 知美) 私のカメラで、ぬいぐるみが映っていると思います。見えますか。

(吉田 剛司) みなさん、『あらいぐまラスカル』というアニメが1975年ぐらいかな。結構、古い時代に、アライグマのこのキャラクターのアニメがありまし

た。そのアニメでは、アライグマは大きくなると、ものすごく飼育が難しい、気性が荒くなって飼えないとなっているのですけれど、それを知らずにみんなが飼ってしまいました。

それから、今画面に「あらいぐまラスカル」の絵とぬいぐるみが見えていると思いますけれど、みんなアライグマは、こんな色しているかな。

(工藤 知美) どう、さっき見ていたアライグマと同じ色ですか。

(吉田 剛司) おじさんから言わすと、レッサーパンダだよね。みんな可愛いと思って、アニメと一緒に飼ってしまったという人が多いわけですね。ペットで飼ったはよいものの育てられずに捨てられたという話です。

ちなみに、お母さん方ならわかると思うのですけれど、この「あらいぐまラスカル」の原作はアメリカです。中西部のウィスコンシン州という所ですね。歌のなかに、ロックリバーに、というのが出てきます。

一度、みなさん、「あらいぐまラスカル」の歌を、あとで聞いてみてくださいね。そのロックリバーというのは、緯度的にいう、地球でどのへんかという、北海道でいうと恵庭と同じです。

(工藤 知美) 恵庭知っている人、手をあげて。おっ、みんな知っている。

(吉田 剛司) 札幌のちょっと南にある恵庭ね。恵庭とその「あらいぐまラスカル」のスターリング少年が飼っていた家は、ほぼ同じ緯度にあります。

北海道で一番最初に、アライグマが野生で確認されたのが恵庭です。

(工藤 知美) みんな、緯度はわかるかな。高さ。

(吉田 剛司) 高さが一緒。

(工藤 知美) 同じぐらいの寒さ。

(吉田 剛司) ということは、もともとアライグマがいた所は、周りに牧草があって川があって、北海道と同じぐらいの寒さだったり暖かさだったりしたわけね。当然ながらアライグマは増える。増えるというか生息できてしまうよね。

(大久保梨奈) はい、ありがとうございます。

それほど増えてしまったアライグマなのですからけれど、札幌市でも見られるのですね。

はい、こちら札幌市の地図なのですからけれど、これどういう地図なのでしょう。

(工藤 知美) はい、みんな、ちなみに札幌市でアライグマ見たことあるよという人いますか。いる人、ちょっと手をあげてください。どうかな。

(吉田 剛司) いるね。

(工藤 知美) どこに住んでいるのだろう。

(女性) 豊平区。

(工藤 知美) 豊平区という声が入っていますけれど、今、みんなが見ている地図は、

札幌市の地図になります。青い線が区をわける線になります。

ピンク色の四角が描いてある所は、アライグマが発見されている所になります。こうやって見てみると、どの区でも発見されていることがわかります。

みんなが住んでいる所にも四角があると思うのだよね。みんなのお家、見つけられたかな。森だけではなくて住宅街にも四角が結構あります。赤に近ければ近いほど、見つけられた件数が多いということになります。

やはり、ちょっと南区のほうが多いように見えますけれど、結構、上のほうでも見えています。

(大久保梨奈) はい、ありがとうございます。

こんなに札幌市にもアライグマがいるんですね。

では、最後に、札幌市で見られる野生の痕跡。野生の痕跡というのは、こういうフンとかなのですけれど、フィールドサインといわれています。

みんな、どれが何のフンか見えるかな。

はい、アライグマのフン、左下ですね。ちょっとコロコロして、ちょっと茶色っぽいかたちなのですが、アライグマのフンは、野生ではなかなか見られないですね。

どういう所にアライグマのフンはあるのでしょうか。

(吉田 剛司) アライグマのフンは、本当になかなか道を歩いていても見られるものではない。みなさん、ちょっと気をつけてもらいたいのは、こういうフンを見つけたとき、キツネの可能性も結構あるので絶対触らないことね。

アライグマは、手先が器用で、例えば木の上に登ったりできる。廃屋や潰れてしまった家のなかなどでフンをするので、あまり野外で見ることはありません。

においは臭いです。雑食なので、臭いです。

(工藤 知美) においは、その生き物によって変わるのですか。

(吉田 剛司) 変わりますね。このなかで一番臭いのはヒグマです。

(大久保梨奈) へえ。

(吉田 剛司) しかも肉を食ったヒグマ、シカなどを食べたヒグマが一番臭いですね。

おじさんたちが最初にパツとうんちを見たときに、これ何かかなと思って探すのは、だいたいにおいます。

(工藤 知美) でも、札幌市の周辺で見られるヒグマは、基本的には草類を食べているから普段はあまりにおわないけれどね。

(吉田 剛司) そうですね。どちらかというと、あまりにおわないけれども、この間見たのはシカの毛が入っていたので、やはりにおいましたね。

(工藤 知美) そうですね。たまに、シカを食べているヒグマもいて、においますけれど

どタヌキとかアライグマのほうが、基本的には臭いことが多いような気がします。

(吉田 剛司) そうですね。基本的にアライグマが一番臭いかも。

みんながよく間違えるのがタヌキですね。タヌキは、ため糞という行為、トイレを決めています。

この写真のタヌキのうんちは、1回ではなくて何回も何回も同じ所で、こういうふううんちをしていくのですね。

時間がたつと、ヒグマと間違えてしまうことが結構多いです。

まれに外来ほ乳類でアメリカミンクがいますね。アメリカミンクのうんちもすごく小さいですけど、よく見ます。

おじさんは厚別に住んでいるのですけれど、このあいだ散歩していただきました。

(工藤 知美) こういうほ乳類は、みんな姿として見ることで、なかなかないと思うのですけれど、地面を見てみると結構、フンは見つけることができます。見つけたときは、かたちを見てにおいを嗅いでみると何の生き物かわかるかもしれません。

でも、直接触ったらだめね。木の棒とかで突っついてみてください。

(吉田 剛司) あまり、うんちをいじるのは嬉しくないと思うので、一番気づくのは、足跡だと思う。

(大久保梨奈) はい。そうですね。足跡の写真こちらです。

アライグマ・タヌキ・シカ・ヒグマの足跡の写真です。

(工藤 知美) みんな足跡、見えていますか。

(大久保梨奈) はい、こちらアライグマ、見てみてください。何か5本の指の跡、感じますよね。人間の手に近いような足跡です。

逆にタヌキは、4本の指なのでですけど肉球があるので、こういう丸いぽんぽんぽんぽんという感じの足跡です。シカは、こちら蹄の跡ですね。たぶん大きさでわかるのではないかなと思うのですけれど、ヒグマの足跡はこんな感じです。

(工藤 知美) 足跡はアライグマが結構わかりやすい気がしますが、どうですか先生。

(吉田 剛司) 一番わかりやすいですね。

足跡を見るには、例えば川にお母さんと一緒に行ってね。お母さんとお父さんと一緒に、川辺の少し濡れた所を見ると、よく足跡がついています。

それから、器用なので、お家の近くのと公園のフェンスとかも見てほしいね。そういうフェンスとかに、こういう手の跡がついていたらアライグマの可能性は結構高いです。

(工藤 知美) このアライグマのとエゾタヌキの足跡は、ちょっと似たような感じに見

えるかもしれないですけど、水辺で見ると本当にきれいな紅葉型をしていることが多いです。5本指だったら大体アライグマなので、そういうところを注意して見てみると面白いかもしれません。

(大久保梨奈) はい、今のフィールドサインですけど、とてもわかりやすいハンドブックを札幌市から出しています。

こちら札幌市のホームページなのですが、札幌フィールドサインハンドブックというハンドブックがありまして、こちらに今のタヌキとかアライグマのフンや足跡、すごくわかりやすく載っています。

ぜひ、みなさん、あとで見てみてください。

(工藤 知美) はい、今みなさんの顔を見てみると、結構メモをとりながら聞いている人も多いかと思います。すごい勉強熱心でびっくり。

この札幌市のホームページにしてみると、飼育員さんが紹介してくれたように、テキストみたいなものが見られるので、ぜひこちらでも勉強してみてください。

(大久保梨奈) はい、どうだったでしょうか。

みなさん、今日紹介した動物を、野外で実際に見ることは、あまり多くないと思います。フンや足跡を見ることはあっても直接アライグマやタヌキを見ることは、あまりないと思います。

今日紹介した動物は、円山動物園に全員、全頭、全種いるので、動物たちの姿を見にきてくれたら嬉しいなと思います。

(吉田 剛司) ぜひ今度、円山動物園に来て飼育係の大久保さんを見つけたら声を掛けてみてください。

それから、今日の情報などいろいろ展示してくれるそうなので、ぜひ、楽しみにして円山動物園に来て、外来種の勉強にもなると思うので見てもらえればなど。

(工藤 知美) 大久保さんは、ショートカットのお姉さんです。

(進行 近藤) では、今のお話を聞いてみて、もっといろいろなことに興味が出てきたかなと思うのですが、みなさんのなかで、もっと先生に聞きたいことがあれば手を元気にあげて、先生にアピールしてもらって質問していただけたらなと思います。どうでしょう。

(吉田 剛司) アライグマでなくてもいいよ。何でもいいよ。

(進行 近藤) はい、お願いします。

(子ども) 家の前とかに、痩せ細ったキツネがよく通るのですよ。

エサをあげてはだめだと思うのですが、どうしたらいいですか。

(吉田 剛司) うん。あのね、ほうっておこう。キツネもすごく可愛らしいのは、よくわかるのですが、エサをあげてしまうと、やはりそれに頼ってしまう

から、ずっといるようになってしまうと思うのね。あとね、やはり、アライグマも含めて野生動物というのは、必ず人間と共有する病気を持っています。

(子ども) たしかに、何だっけ、あれ。

(女性) エキノコックス。

(子ども) それ、エキノコックス。

(吉田 剛司) そう、エキノコックスよく知っているね。エキノコックスというのがあるから。

(子ども) 猛毒の生物の本持っている。

(吉田 剛司) 外来生物の図鑑とかも持っている。

(子ども) それは持ってないです。

(子ども) 猛毒生物の本がある。

(吉田 剛司) 猛毒生物の図鑑面白いものね。

(吉田 剛司) お母さん、大変ですね。図鑑高いからね。ぜひ、キツネがね、近くに通ったとしても観察はしてもええけれど、エサはやらないようにね。

(子ども) はい。夜の12時とか通るのですよ。

(吉田 剛司) 家の近所でうんちしていついていないかな。庭などでときたましているよ。見てみたらいい。でも、絶対触らないように。

(子ども) おばあちゃん家にいるのは、見たことあるけれど。

(女性) 、庭も通るのですけれど、気をつけたほうがいいのですかね。

(吉田 剛司) フンがあったとしても、触らなかつたら大丈夫です。

一昨日、僕の家は普通の住宅地なのですが、キツネのうんこ落ちていました。

(吉田 剛司) 喜んでしたのは、家の嫁さんだけ。

キツネはネズミを食べるので、ネズミの数によってキツネの数も変わってくるので、多いときはものすごく目立ちます。

(子ども) たしかに、ネズミを襲っているところを見たことあるから、納得。

(吉田 剛司) ぜひ、生き物をしっかり観察してください。

(子ども) はい、ありがとうございました。

(吉田 剛司) はい、ありがとうございます。

(進行 近藤) ほかに、いらっしゃらないですか。

(工藤 知美) 事前に質問があったもので、もう一つ。疥癬にかかったアライグマやタヌキが、人やペットに及ぼす影響について知りたいですという質問をくれた子がいました。それについて、お願いします。

(吉田 剛司) 疥癬というのは、人間にもかかる、ものすごく毛が抜ける病気です。ガリガリになって毛が抜けているキツネとかタヌキを見ると、かわいそうと

思うのですけれど、結構流行っている病気です。市役所とか区役所に電話する人もいるのですけれど、あまり気にしなくていいと思います。痩せているキツネやタヌキを見ても、放っておいてあげることが一番いいと思いますね。

北海道ではなくて本州なのですけれど、外来種のハクビシンは知っているかな。疥癬のガリガリに毛が抜けている疥癬のハクビシンがいて、みんな見たことないから、新種だと話題になりました。ほ乳類の新種が日本で見つかることはなかなかないです。とにかく病気持っているので、さっきの話ではないですけれど、あまり近づかない、ということですね。

(工藤 知美) ありがとうございます。ほかに質問ある子いるかな。

(子ども) はい。

(工藤 知美) どうぞ。

(子ども) キツネのフンはどのようなかたちで、どのような色ですか。

(吉田 剛司) うんちの色はうんち色だな。キツネは食べたものによって、結構違う。人間だって、例えばトウモロコシ食べたら、ちょっとトウモロコシっぽいうんちするのと同じで、例えばセンチョコガネというきれいな虫がいます。

(子ども) 虫。

(吉田 剛司) うん、虫。カブトムシの仲間で、青、赤、赤緑など、緑っぽく輝く虫を好きで食べているのね。そうすると、うんちが一部分だけエメラルドグリーンに輝いていたりします。犬に近いから犬のようなフンで、細くて小さいやつ。先っぽがちょっとシュツとしているね。何に似ているかな。

(工藤 知美) 犬ではないですか。

(吉田 剛司) それ以外で何か似ているものないかなと思って。そう、かりんとう。

(工藤 知美) ああ、かりんとう。

(吉田 剛司) 柔らかいかりんとう。水に浸けたかりんとうみたいな感じかな。

(子ども) ありがとうございます

(工藤 知美) はい、ありがとうございます。

(子ども) 外来生物はどうして来たのですか。

(吉田 剛司) いい質問ですね。アライグマはペットだという話をしましたね。ペット由来の外来種は結構多いです。例えば、みなさんがホームセンターなどでときたま買うミドリガメ。小さいカメね、あれ大きくなるでしょ、こんな大きなカメになるやつね。アカミミガメというやつね。あれペットですね。それから札幌には実はみんな気づかないかもしれないですけど、アメリカザリガニが普通に生息しています。創成川でとれます。それも、ペットだったり、学校で使ったりしたやつですね。

もともとは何かというと、もっといろいろな複雑な理由があります。例

えば、アメリカザリガニはウシガエルのエサとして持ち込まれました。ちなみにウシガエルも外来種です。ウシガエルはなぜ連れてこられたかという、ウシガエルは人間が食べようと思って戦争のあとに食用目的として持ち込まれました。食用目的で持ち込まれたもの、それからペットで持ち込まれたものというようなものがたくさんあります。

さらに実は外来種というのは人間が意識をしないでも持ってくるものがたくさんあります。ちょっと難しいけれど、これを専門用語で非意図的というのね。意図していないけれど、来てしまったというのがあって、みんな聞いたことあるかな、ヒアリって。おじさん刺されたことがありますよ。噛まれたことはないけれど。噛まれたらたぶん入院していたけれど。ヒアリはペットではないよね。荷物にまざってくる。荷物にまざってきたりとか、いろいろな意識しないうちに持ってくるというのが結構あります。船についてきたとか。東京湾に行くと、最近、東京湾で見られるカニや貝のほとんどが、ほとんどといったらちょっと語弊があるけれど、多くがヨーロッパだったり地中海のものだったりします。これは船についてきたり、水のなかにまざってきたりしたやつだね。園芸、近くに植えている草とか花とかも、そういうところから増えているのも、たくさんあります。いろいろな理由で外来種というのはたくさん入ってきます。

(工藤 知美) 大丈夫ですか。

(子ども) ありがとうございます。

(工藤 知美) はい、ありがとうございます。ほかに質問ある子いますか。

(子ども) さっき、アライグマが木に登って鳥を食べると言っていた気がするけれど。

(子ども) アライグマの影響でこのペースでいったら絶滅する動物はいないのですか。

(工藤 知美) アライグマの影響で絶滅があやぶまれている動物は何でしょう。吉田先生知っていますか。

(吉田 剛司) 一番危ないのはシマフクロウです。

(工藤 知美) シマフクロウ、みんな知っている。

(吉田 剛司) 北海道に何羽ですかね、今、シマフクロウって。

(工藤 知美) 何羽かな。150羽ぐらいだったと思う。

(吉田 剛司) 木の上で繁殖し、巣をつくります。

(工藤 知美) 30cmぐらいの大きなフクロウです。

(吉田 剛司) こんな大きなフクロウが、今のところはまだ大丈夫というか、襲われているわけではないけれど、襲われだすとやはり一番危ないですね。

あと、札幌だと例えばサンショウウオ。エゾサンショウウオというサン

ショウウオがいますけれど、アライグマが食べるね、たぶんね。

それほど多くないので、札幌からエゾサンショウウオが減る理由というのは、アライグマが原因になる可能性は大いにあると思います。あとニホンザリガニもそれほど多くないので、札幌でニホンザリガニに対する影響が、おそらく今後出るのではないかなと思う。いい質問ですね。ありがとうございます。

(工藤 知美) ほかに質問ある子いますか。今のところ、いないかな。外来種を、アライグマをもしみんなが札幌市で見つけたとき、どうしたらいいですか。吉田先生。

(吉田 剛司) 市役所に連絡するという手もありますけれど、みなさん小学校のときにはぜひ、アライグマだけではなくて、生き物を見つけたら、みんな生き物好きだと思うので、何をみたかを書くクセをつけてください。例えば足跡を見つけたら、お母さんの携帯電話を借りて、ちょっと写真を撮ってみる。

そして、アライグマとメモするようにしてくれたらいいなと思います。今コロナでみんな集まれないけれど、もうすぐみんなまた集まって活動できるようになったとき、どこどこでこんな見たとよという情報をおじさんたちに教えてくれると、それがものすごくいい話になって、今後、生き物の保全につながると思うので、ぜひ、アライグマだけではなくて、いろいろなものを見たら、メモをとる練習してほしいなと思います。

(工藤 知美) 生き物がどこにいたという情報はすごく重要なので、メモするクセをつけてもらえたらいいかな、と思います。ほかに質問ある方、いますか。いないかな。

(進行 近藤) はい、そろそろ、お時間ですので質問タイムは終了していこうかなと思います。今日、お話でいろいろ興味をもった方は図書館に行ったり、インターネットで検索したりして、もっともっと、いろいろなことを調べてもらえたらいいなと思います。

はい、みなさん、本日は「オンラインワークショップ親子で知ろう さつぼろの外来生物ってなんだろう？」にご参加いただき、ありがとうございました。外来生物を増やさないための予防三原則「入れない、捨てない、拡げない」は周りのお友だちにも、ぜひ教えてあげてください。

最後に、アンケートのご協力のお願いです。今後、札幌市生物多様性に関するイベントなどの参考にしたいと思いますので、ぜひ回答をお願いします。画面上のQRコードを読んでいただければアンケート回答フォームへ移りますので、そちらから回答いただくか、このあと、みなさんへメールをお送りしますので、そちらからメール本文のアンケートフォームのリンクから回答いただいても大丈夫です。

また、本日ご参加いただいた方のなかから抽選で、動物園グッズのプレゼントがあります。当選したかどうかは発送をもってかえさせていただきます。

本日はご参加いただきありがとうございました。本時間をもって、オンラインワークショップは終了となりますので、各自退室してください。ありがとうございました。